

『うさぎとかめ』～比較の危うさ～

令和7年7月14日

イソップ物語のなかに「うさぎとかめ」のお話があります。山のふもとを目指しかけっ勝負をするのですが、足の速さで負けるはずもないうさぎが、途中、油断をし、寝ている間にかめに追い越されるというお話です。このお話の教訓として、過信して思いあがり油断をすると取り返しのつかない結果になること。歩みが遅くても、コツコツ努力を続ければ最後には大きな結果を得ることができる、というものでしょう。まったくもってその通りだ



と思います。もし、このお話をもとに、子ども達に、「うさぎとかめでは、みなさんは、どちらがいいですか？」と、問いかけたら子ども達の多くが「かめ」と答えるのではないのでしょうか？保護者の方もコツコツ努力をする「かめ」のようになりなさいと諭すことでしょうか。ですが、あえて私は、うさぎになりたいと答えます。但し、途中で、居眠りをするようなことがないことを前提としますが…。うさぎの失敗はなぜ、おきたのでしょうか？ぴょんぴょん跳ねてかけていく自分(うさぎ)に比べ、のっそりの歩みののろいかめを見下し、油断をした結果です。うさぎは、自分とかめを比べることによって過信と慢心が生まれたのです。もし、かめと比べることをせずに、自分のペースを最後まで走り続けていたら勝利はうさぎのものだったのです。比べることによって自分で自分の力を台無しにしたのです。一方、かめはどうでしょうか？うさぎのペースに乱されることなく、ゴールを目指し自分にできる精一杯の努力を続けた結果、ゴールという目標に到達できたのです。このことを教訓の一つに加えるならば、「他者との比較ではなく、自分にできる努力をすること。比較をするのであれば、他者との比較ではなく、前の自分、以前の自分と今の自分ではどれだけ成長したかの自己内評価が大切だ」と、いうことです。心理学の分野では、他者との比較が「なにくそ、負けないぞ」の競争意識を高める効果がある一方で、マイナスの部分もあることが指摘されています。マイナスの面とは、他者と比較することで劣等感や意欲の低下を招く傾向を高めることです。



さて、保護者の方もブータンという国が左の本の題名にもあるように、「幸福度ランキング」で上位に位置するというを耳にしたことがあるのではないのでしょうか。但し、この話は、10年ほど前の話であり、2013年には、北欧に続いて8位だった幸福度が、2019年には95位に低下し、その後はランキングに登場していないそうです。10年ほど前まで、「風雨をしのげる家と食べ物があり一緒に過ごす家族がいれば幸せ」という価値観が、インターネットなどの通信機器の発達により、外国の情報が入るにつれ、自国と他国の生活水準の比較をするようになったことで、先進国の経済的・物質的豊かさへの羨望の意識が生じてきたからではないかと分析する識者もいます。他者との比較が他者に振り回される結果を生むことがあるのです。残念なことですが、他者との比較は、どの人間にも、私達大人の間にも根深く巣くつているものだとすることを自覚しなければなりません。私たちが子ども達を見る時、その意識が、場合によってはその子の良さと可能性を奪っているかもしれないと考える必要があるのです。「みんなやっているのにあなたは…。」「ここまでやらないといけません。」「あなたならできるから頑張りなさい。」というように言葉がけや対応が「その子軸」ではなく「他者軸」に、時に、「大人軸」になっている場合があるということです。では、どうすればいいのか？王道の手法ですが、その子自身の成長を評価をしてあげることだと思います。「ないたい自分」をえがかせ、0.1ミリでも成長したのならそのできたことや成長した所を言葉で伝えること。そのために、子どもが成長した所を見つける習慣を身に付けることだと思います。ややもすると、私もそうでしたが、自分の子どもに過度の期待を抱きます。少しでもより良い成績、より良い人生を歩んで欲しいとの願いが、子どもからすれば時に口うるさく感じることもあるでしょう。人には生まれながらに持った才というものがあるかもしれません。その能力によって結果が違ってくることもあるでしょう。ですがどんな能力であれ自分にできるベストを尽くす行為の尊さに差はありません。「かめ」の素晴らしさは、そこにあると思うのです。